

2 各部の基本納まり図

2-6 開口部

③左右側^(注)

1) 開口部左右側の基本納まり

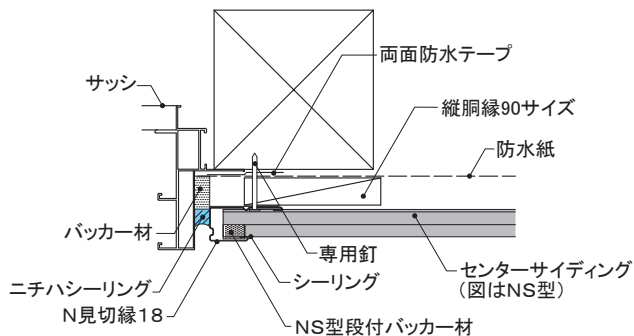
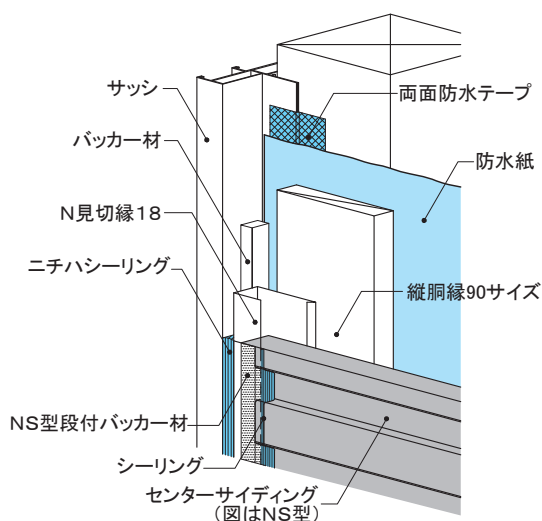
- サッシと見切縁との取り合いは、10mm程度の隙間を設けシーリングを施工します。
- 型によって見切縁が表のように異なります。
- 見切縁と本体の取り合い部にシーリングを施工します。

表 部材の設定

FN型、ST型、NS型	N見切縁18
シリズ、F型、FB型、D型、A型	S見切縁18

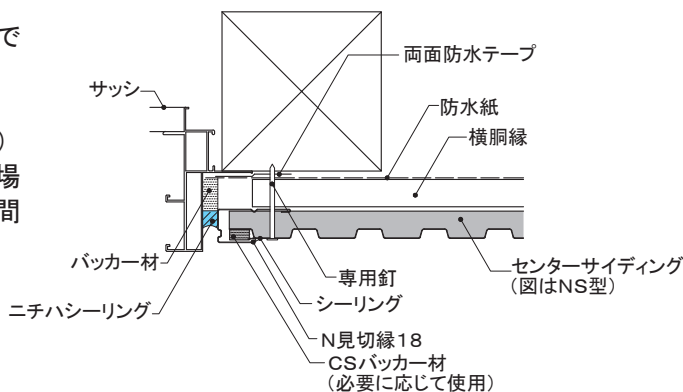
※ 廻り縁納めについては、P69を参照してください。
 ※ 開口部に使用する見切縁18、見切コーナーは、以下のいずれかの組み合わせで施工してください。
 ① N見切縁18・N見切コーナー
 ② S見切縁18・S見切コーナー

①横張りの場合

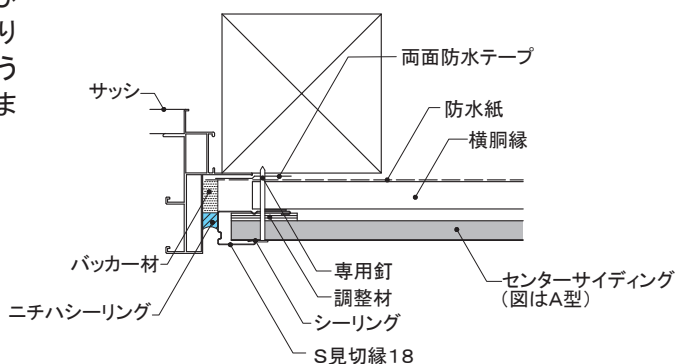


②縦張りの場合

- センターサイディングの張り始め、張り終わりでオス実を切断するなど、実部に留め付けられない場合は、表面から釘留めします。
 木下地の場合は専用釘(φ2.75mm×50mm)を用いて500mm以下の間隔で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)を用いて610mm以下の間隔で留め付けます。



- A型は長手方向に切断すると、実形状および芯材の厚みにより働き幅方向の厚みが変わります。そのまま施工すると本体が傾いてしまうため、あらかじめ木材などの調整材を施工します。



(注) 本仕様は柄特性上、スマートフラットの施工はできません。